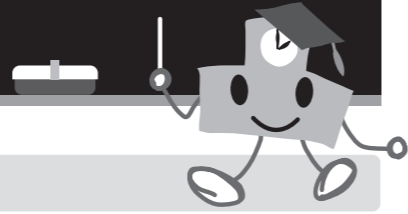


小学校の事例 手稲区 前田小学校

ふるさとの川を観察し、魅力を再発見。 川の未来を計画し、地域に向かって発信する。

総合的な学習の時間で身近な川の調査をし、問題点や魅力の再発見につなげる。内容をまとめ発表することで地域との関わりも生まれ地球環境を意識する。



内容 それぞれの課題で川を調査 魅力を発見

本校では平成20年度から、4～11月にかけて年に8回、4年生が「再発見!ふるさと前田、もっと軽川」と題し学校の近くを流れる軽川の調査を行っている。これは総合的な学習の時間に行っている取組で、地域を見つめなおし、故郷への愛着を育てる狙いがある。

この取組では、1学期に軽川について調査してみたことを考えて実施。この課題についての8回の現地での調査活動をとおり、子供たちはそれぞれの調査内容を白地図にまとめ、軽川のおよさや問題点を発見していく。

2学期は、図工の学習とリンクさせ、軽川のお勧めスポットの写真撮影やお気に入りの場所のスケッチをする。また、軽川を新たな視点から見つめ、さらによさを生かすために必要なことは何か、どうあってほしいかなどを話し合った。そしてその内容を「もっと軽川ゆめ計画」としてポスターを作り、グラウンドのフェンスや手稲駅「あいくる広場」に掲示して、地域の方に願いを伝える活動を行っている。



ポスターを掲示

ポスターの内容

「ごみのポイ捨てをやめ、川や道をきれいにしよう!」
魚や鳥などの生き物が軽川や前田の地域に住んでいるから。

「私たちの住む街や川をきれいにして
環境を考えていこう!」

「海から魚が来てくれる川にしよう。」



掲示されたポスター

この活動によって子どもに「課題を自ら発見する力」や「調査した内容を整理する力」、さらに「地域に発信する力」が育った。また「軽川」を窓口として、自分たちも地域の一員であるとの意識や環境への関心が高まっている。

今後 地域の川とのふれあいから地球環境を意識

子供たちの考えた「もっと軽川ゆめ計画」の中に、軽川の探索ツアー実施、パンフレット作成という願いが出ていた。地域の川を取り上げた資料や企画があれば、もっと身近な環境に目を向けていけると考えている。また、子供たちが不思議に思ったことを自分の力で調べられるように、小学生に対応できる総合的な「環境窓口」があれば、さらに解決能力が高まるのではないだろうか。

本校では、この学習をきっかけに子どもが日常生活の中で環境についての考えを深め、自主的なごみ拾い、節電、節水等の活動をするように指導していきたいと考えている。地球の環境を維持していくために、よりよい判断や行動ができるよう、環境への意識を高め、正しい判断力や知識をもたせるよう育んでいきたい。



川の探索①



川の探索②



川の探索③

広げよう
つなげよう
環境学習の輪

実施校から
メッセージ

この取組では、安全を第一に考え、天候による増水など川の状況や天気によって川に入る調査活動日の決定が難しかったです。また、学習をとおり子供たちに考えさせたいねらいや、課題を解決していくための方法等の見通しをもち、単元をとおり計画的に進めることが大切だと感じました。